

お 泉 水

1993年3月1日

■平成4年度全国図書館大会

11月17～19日の3日間、名古屋市で第78回全国図書館大会が開催された。「新しい図書館の世紀をひらこう—日本図書館協会100周年を迎えて—」のテーマのもとに、全国から1,818名が参加した。(本県からの参加は23名)

1日目は、開会式に続いて全体会が開かれ、大会副会長による基調報告、愛知芸術文化センター総長飯島氏による記念講演「図書館の現状と将来」が行われた。基調報告の内容は、新しい図書館、大きい図書館が増えてきている今、館長の有資格問題や、学校図書館司書の問題などの課題に、図書館で働く者の力で取りくんでいきたいというものであった。

2日目は、13の分科会にわかれて、それぞれ事例発表や研究討議がなされた。

3日目の全体会では、各分科会の報告と、それに対する質疑応答などが行われた。また、すべての公共及び学校図書館に司書職制度を、という要望や 障害者への図書館サービスの充実をめざす宣言」が出され、閉会した。

(大野市図書館 山村 和美)

■平成4年度全国公共図書館研究集会

◇奉仕部門

9月17日・18日の両日、水戸市で「地域社会のニーズに応える図書館奉仕」を研究テーマに平成4年度全国公共図書館奉仕部門研究集会が開催された。参加者は325名で、本県からは6名が参加した。

最初に、開催地水戸にちなんで「若き日の水戸黄門」と題した記念講演があり、つづいて事例発表へと移った。

研究内容は、「公民館と図書館の相互連携について」「外国人への図書館サービスについて」「情報化社会における県立図書館の機能と役割」「100万の蔵書をつくり、活かす」の4つで、それぞれの事例発表について熱心な研究討議がなされた。とりわけ、生涯学習時代における図書館の位置づけのむずかしさ、また、高度情報化社会に対応するちめの複数館での相互協力の必要性をまとめに、2日間にわたる大会の幕はとじられた。

(清水町立図書館 松原 和子)

◇整理部門

9月10・11日の両日、富山市の高志会館で、「世紀をこえた大規模蔵書の保存と活用」を研究テーマに、平成4年度全国公共図書館整理部門研究集会が開催された。参加者は301名で本県からは6名が参加した。

事例発表は、「中野区における図書館資料の新しいリサイクルのあり方について」「増築書庫の運用計画について」「群馬県図書館協会雑誌保存規約による資料保存状況」「新築県立図書館における資料管理」で、内容は主に都道府県立図書館の資料保存の現状報告であった。発表のあと研究・協議が行われ、資料をリサイクルするうえでの課題、共同・分担保存するための協体制づくりのあり方などについて、活発な意見交換がなされた。

なお、記念講演は「これからの社会と文化」(菅原真理子氏・国立公文書館次長)であった。

(福井市立みどり図書館 中村 宗玄)

◇参考事務分科会

10月1日・2日の両日、福岡市で「新しい図書館像を目指して—参考事務の明日を考える—」を研究テーマに、平成4年度全国参考事務研究集会が開催された。参加者は363名で本県からは6名が出席した。

研究内容は「町立と県立図書館のネットワーク事例」「三市一町の図書館協力」「大規模図書館における主題別分化の問題点」「公共図書館における外国語資料サービス」等4件の事例発表及び研究討議であった。なお、記念講演は「レファレンス・サービスの明日を考える」(長澤雅男氏・東京大学教育学部教授)であった。その他にも、特別発表として「神奈川県図書館ネットワークと県立図書館レファレンス業務の現状と課題」(市川雄基氏・神奈川県立図書館調査部協力課副主幹)がある等、全体として盛り沢山で興味深い研究集会であった。

(福井市立図書館 森瀬 一)

◇児童図書館分科会

10月8日・9日の両日、青森市で行なわれた、2年に1度の児童に対する図書館奉仕全国研究集会は、毎回共通の「すべての子どもに読書のよろこびを」を研究主題として開催された。参加者は402名で、本県からは5名が参加した。

基調講演「児童奉仕の現状と課題」において、小河内芳子氏は、児童図書館員の専門性の重要性を力説され、それに続いて、3分科会『社会の変化と児童図書館員の専門性發揮』『図書館間の児童奉仕連携』『学校・地域への児童奉仕展開と読書普及活動』で事例発表と研究討議が行なわれた。分科会をうけ、全体会において、1.司書教育に児童奉仕の必修科目を設定。2.学校図書館に専任の司書を設置。3.司書職制度の確立。という内容の決議案文を採択して、研究集会の幕を閉じた。

(今立町立図書館 田中 滋子)

新設図書館紹介

福井市立みどり図書館オープン

— また、ひとつ拠点が —

福井市立みどり図書館

福井市立みどり図書館は、福井市にとって昭和51年開館の市立図書館以来2館目として、平成4年8月1日に開館しました。位置は、足羽山の西、西部緑道に面し、田園風景が未だ残り、また、運動公園にも近く、緑豊かな環境の中にあります。施設等の概要は、次のとおりです。

所在地、福井市若杉町第51号3番地 構造、鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上2階建て（中3階、塔屋付）敷地面積、5,505.03㎡ 建築面積、2,410.55㎡ 建築延面積、3,285.83㎡（1F、2,048.65㎡うち開架面積、1,469.60㎡ 2F、778.38㎡等）

1階には、サービスカウンターと一般書コーナー（8万冊収容可の開架、座席数83席）新聞・雑誌コーナー（新聞17種・雑誌233誌所蔵、座席数50席）、AVコーナー、児童書コーナー（2万冊収容可の開架、座席数60席）、その他、おはなしコーナー、くつろぎコーナー（座席数18席）、朗読サービス室・コンピューター室、館長室、事務室等です。2階は、視聴覚室（座席数56席、椅子のみの場合104席）、講座室（座席数30席）、会議室（座席数16席）、くつろぎコーナー（座席数15席）、書庫（12万6,000冊収容可）、その他、展示コーナー、スタッフラウンジ等です。地階は、機械室、倉庫。駐車場は、67台、自動二輪用8台、駐輪場88台です。

図書館に入ると、広々とした開架フロアが目につくように、新聞・雑誌コーナーを中3階までの吹き抜けとしました。壁面は、四方をガラス張りにし、できるだけ自然の

彩光を取り入れました。天井高も4m～8mと、のびのびとした空間になっています。書架間隔は、幅広く取り、ゆったりとした気分で本選びができるように設置しました。高書架の上部2段は、本の向こうにさらに本が見え、本が貸出されたあとの空白から、書架群が見わたせるように、背板を取り除いた書架になっています。

おはなしコーナーや児童書コーナー、新聞・雑誌コーナーは、床暖房の設備をしています。障害者のための配慮もしてあります。だれもが、開放的で明るくのびやかな雰囲気の中で利用できるようにしました。

開館以来特に人気が高いのが、AVコーナーのビデオ・LD視聴で利用の多い土・日曜日は、朝10時の開館と同時にすべてのブースが埋まってしまい、終日次々と利用されています。（2人用6台設置）CDの試聴ブースは4台。人気のあるソフトは、予約しなければ借りることができない状況です。

貸出は、土・日曜日が多く、1時間に1,500冊余りを貸出した時間帯もありました。昨年未までの累計貸出冊数は、約23万4,000冊となりました。

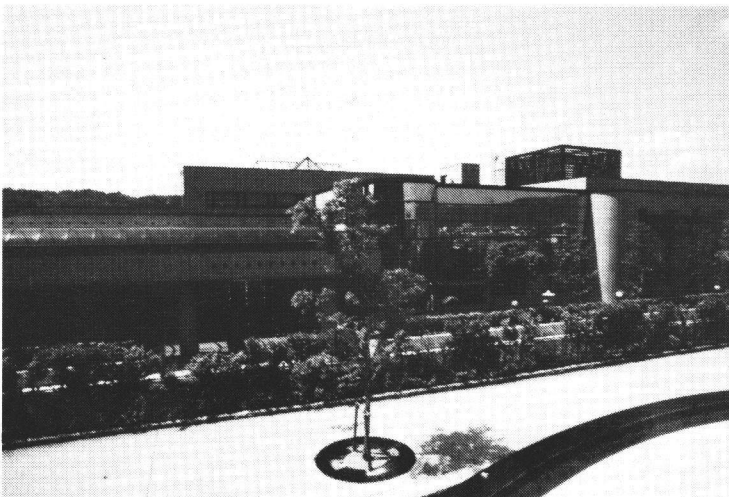
文化行事としては、児童向けには日曜日午後のお話し会、一般向けには、平成2年度から市立図書館ではじめた「図書館市民講座」を、みどり図書館でも行っています。本年度は、「地球にやさしい生活」の課題で4回開催しました。

また、8月には、開館記念コンサートとしてハープ演奏会を、10月には、ライブラリーコンサート「チェロは歌う」と題した演奏会を開催し、いずれも大盛況でした。その他、昼のひとつき、ピアノ演奏などのミニコンサートも催しています。

市立図書館とはオンラインで結び、どちらの館でも、自由に資料を借りたり返却したりすることが可能なばかりでなく、利用者自身が端末機（3台設置）で両館の蔵書が検索できるシステムになっています。

AV資料も含め、新鮮で魅力ある蔵書の充実はもとより、諸行事を企画し市立図書館と一体となって福井市の図書館サービスの拡充を図り、より多くの市民が身近で気軽に利用でき、暮しの中に生きた図書館であることを目指しています。

（福井市立みどり図書館 田中 元和）



新設図書館紹介

地域住民に開かれた図書館をめざして

武生市立図書館分館 らいぶ・はうす硯(らく)

武生市は、一昨年改訂した総合計画の中に「図書館システムの整備を進める」の一文を盛り込みましたが、その出発点として昨年5月23日、武生市立図書館分館らいぶ・はうす硯(らく)がオープンしました。総事業費は239,000千円で、建物本体の工事費が176,130千円。内115,000千円が通産省の電源地域産業再配置促進費補助金です。玄関前の周辺案内サイン板に『紫部公園と中央公園を古府の松並木で結ぶ“ふるさとを偲ぶ散歩道”—その心を伝える魅力のシンボルゾーンに建つ“らいぶ・はうす硯”は、石のすばらしい残響を生かした視聴覚ホールと木のぬくもりを生かし、児童図書を中心に、楽しい時を過ごす石造りの図書館です。二つの石が互いにうち合い響き合って、新しいふるさとの文化が創生される生き生きとした空間として活用されることをねがっています。1992年5月』と印されているとおり、景観と公園関係施設を強く意識した図書館です。

開館時の資料数は、児童書8,500冊、一般書3,500冊、洋書絵本等300冊、新聞7紙、雑誌60種、AV資料若干(本館より借受)、特殊資料としてSPレコード1,400枚で、除々に増やしています。夏休みには、県立図書館の市町村協力用図書を500冊借用して、書棚を補充し、急場をしのいだこともあります。

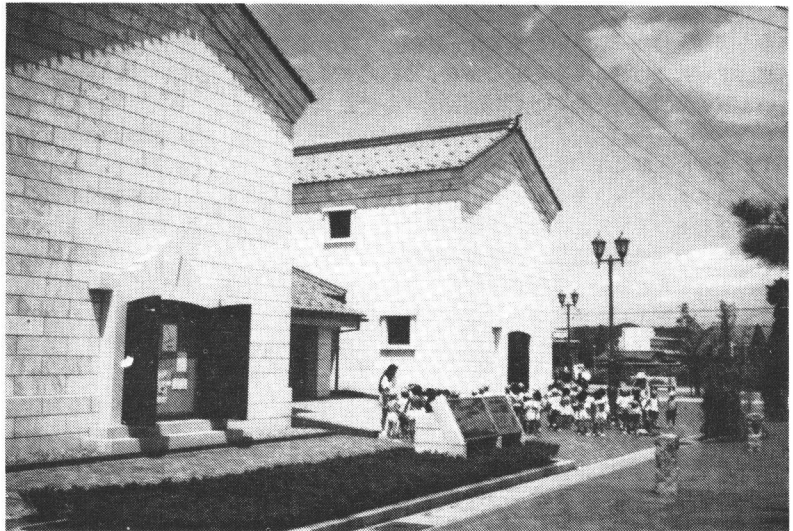
★施設の概要

建設地	武生市高瀬一丁目15-47
敷地面積	約1,600㎡(別に駐車場20台分有り)
構造	鉄筋コンクリート造瓦葺2階建外壁石積み
建築面積	284.88㎡
延床面積	393.48㎡

★利用者数(平成4年12月末現在)

入館者	56,717人(感知機計測数)
登録者	1,855人(更新者は含まず)
貸出人数	16,315人
貸出冊数	51,468冊
行事参加	4,750人(延べ61回開催)

施設の規模と蔵書数からみて、利用数は想像を超えるものでしたが、現在は鎮静化しています。児童とお母さんに的をしぼり、雑誌(現在70種)と200インチ大画面での子



供向け映画会でPRをしたことが、効を奏したのかもしれませんが、当然、的からはずれた層からは、ご批判をいただきましたが、硯の規模では、あらゆる資料をまんべんなく備えることは、不可能でした。また、周囲1km圏内に、保育所4、幼稚園3、小学校2、中学校1を配した文教地区であったことも考慮されました。園外保育や、ゆとりの時間を利用して、多くの子供達が訪れてきます。

開館時間は、午前10時～午後6時(日曜日は4時)、休館日は、月曜日、祝日、第3日曜日、月末整理日、年末年始となっています。武生市も今年1月より、週休2日制が導入されたため、現在の職員数(正職1人、嘱託司書1人、土曜日と春夏秋冬休み期間勤務のアルバイト1人)では厳しいため、本館からの応援を受けています。運営面では、当初から電算システムの導入を行い、順調に稼働しています。但し、本館がまだ電算化されていないため、変則的な貸出・返却方法となっています。

硯ができて、確信を持ったことは、近くに使い易い図書館があれば、必ず利用者は増えるということです。2千人近い人々(主に児童)が、硯で初めて図書館を体験したという事実は、これからの武生市の図書館政策に、少からず影響を与えていると思います。今後は、図書を中心とした、資料の充実、映画会や子供向け行事等の定例的開催、学校や幼稚園・保育所との連絡強化を図りながら地域住民に開かれた図書館として喜ばれるよう、務めたいと思います。

(武生市立図書館分館らいぶ・はうす硯 栗波 敏郎)

福井県立大学情報センターの概要

福井県立大学は、福井県的高等教育と、学術研究の格段の充実を図り、技術革新・高度情報化・国際化・高齢化などが進行する社会の変化に対応しながら、福井県が活力ある地域として発展するためには必要不可欠のものとして設置された。

すでに4月に入学した305名の第一期生は、九頭竜川河畔に開けたダイナミックなデザインのキャンパスで充実した学生生活を送っている。また、大学周辺には、国立福井医科大学や県の試験研究機関、情報産業集積団地「ソフトパークふくい」など、研究学園都市として多彩な学術研究機能が集積する恵まれた環境の中にあり、教職員と共に新しい学風形成に意欲を燃やしている。

情報センター

本学の情報センターは「高度で専門知識や技術を有する創造力豊かな人材を養成し、先進的な科学の研究技術の開発を進める」ための中心的施設であり、コンピュータ部門と学術情報部門（図書館）で構成されている。

本学の教育の特色の一つに外国語と情報教育の重視があげられるが、国際化、情報化時代を迎え、今や語学力と情報処理能力は不可欠となっている。

情報教育では、情報理論・情報演習を両学部共通の基礎科目とし、それぞれ1年次の必修科目として履修することとしており、情報センターコンピュータ部門はその情報教育を支える重要な役割を担っている。

この情報センターの英語名称は、Center For Information Science(略称名CIS)で、欧米ではInformation ScienceはLibrary & Information ScienceとComputer & Information Scienceを含み、図書館情報センターとコンピュータセンターから構成される本学の情報センターにふさわしい名称となっている。

情報センターの主な機能

① 学術情報の集収・提供

教育・研究に必要な図書・雑誌のほか、コンピュータネットワークを利用した情報検索などにより、国内外の学術情報の的確・迅速な収集・提供を行う。

② 情報の教育・研究

情報に関する基礎的な理論と処理技術を修得させるため、情報処理教育を一元的に行うとともに経済学、生物資源学の各専門分野に

おけるコンピュータの活用について、各学部と共同して研究を行う。

③ 学内事務の処理

ホストコンピュータを利用し、図書購入および受入、貸出・返却などの図書館業務のほか、教務、入試、就職などの分野の大学管理事務合理化を図る。

図書部門の機能

教育・研究に必要な図書・学術雑誌のほかコンピュータネットワークを利用した情報検索などにより、国内外の学術情報を的確迅速に収集、提供することを目的とした図書部門は以下のとおり運営の基本原則を設定している。

① 開架制：図書・学術雑誌を可能な限り開架する。

② 集中化：図書・学術雑誌を情報センターに集中し、資料の重複を避け、効率的な収集、提供を行う。

③ 公開：地域社会の学術情報提供機関として、大学の教育・研究に支障のない範囲で資料の公開をめざすこととし、地域に開かれた大学としての機能を果たす。

コンピュータシステムの概要

図書部門のコンピュータシステムは、学内全体を総合的にかつ高度に情報化したインテリジェント・キャンパスとして、その目的達成のために構築している「県立大学総合情報ネットワークシステム」の中の「学術情報の収集・提供」サブシステムに包含されている。

大学図書館のために開発されたパッケージシステムILIS(Integrated Library Information System)を導入している。(福井県立大学情報センター 情報課長 齋藤 修二)



談 話 室

私 の 仕 事

新館に移転と同時にコンピュータ化。一年半が過ぎて、私自身やっと落ち着いてきたかなと思っています。

最初、コンピュータに関してはしろうとばかりの職員で、単純なミスも多く、福井のメーカーへあたふたと電話をかけることもしばしば。端末機の前での緊張が目や肩にきていましたが、それも少なくなってきました。

私の主な仕事である、図書の発注作業と受け入れ作業におわっている毎日にも、やや飽きが来て、他の仕事がないなあという気分。郷土資料の整理や書庫の資料の整理、書架の図書の移動等、やらなきゃいけない仕事はいくらでもあるのですが…。利用者のリクエスト本が書店から届けば、すぐ装備して貸し出しできるようにしなければならず、また、新刊を少しでも早く書架に並べて、利用者にサービスしようと思うと、発注処理も急がねばならない。立ち寄った書店で見かけた本や、今朝新聞で見た新刊案内を見て、その本が図書館にあると思って借りに見える利用者も多いんです。あ、でも今年度の図書購入費は、もう使い切ったし、後はポチポチということにして、他の仕事に手を出しましょうか。

(敦賀市立図書館 田中 恵子)

地域の図書館をめざして

昨年1年を振り返ってみるとBMで始まりBMで終わつたような1年でした。

永平寺町のBMは現在2台目で町内在住の篤志家によって寄贈されたもので、職員もこの善意に応えるべく運行をおこなった訳である。

昼間は各学校、保育園へ巡回、週に一度は全国でも珍しい夜間巡回を実施した。

結果は本館を上回る利用、また地域住民とのコミュニケーションも図れ、年末には中部版でマスコミに取り上げられ華々しく紹介された。

一樣、PRでは成功したように思える、しかしその反面、それに対応すべく基本的な図書館として運営されているのだろうか。

不安材料がやたら目につき、そうそう喜んではいられない現実がまた目の前に立ちはだかっている。

この生涯学習時代の中にあって、常に図書館職員は図書館本来の役割・機能を十分に認識し、図書館活動を進めなければならないだろう。

図書館の役割がいま問われている。

(永平寺町立図書館 酒井 圭治)

オレンジの花

ここ10年余り、花など付けたことが一度もなかった図書館の鉢植えに、オレンジ色の花が咲いた。初代館長さんが在職されていた13年前、花屋から買い求めてこられた鉢の1つである。館長さんは、既に第一線から退かれて、悠々自適に過されておられたところを、新しくできた図書館のために、毎日福井から電車を乗り継いで通って来て下さった。そして、金曜日になると、必ず両手に花を抱えてやって来られるのが常であった。花を愛し、本を愛し、人を愛される方であった。

それから10年余り、数種類があった観葉植物の鉢も随分枯らしてしまつて、生命力の強いものだけが、水だけで細々と生き残っているだけになってしまった。2、3年前から、肥料を施したり、植えかえたりして、思わぬ赤い花や白い花を咲かせてくれた。利用者の方からいただいたり、株分けしたりで、今では100くらいはあるだろうか。館内はグリーンであふれている。

図書館の蔵書も、利用者も、当時とは比べものにならない程に増えている。今、図書館は本当に充実しているのだろうか。オレンジの花を見て思う。

(鯖江市図書館 早苗 忍)

大学図書館員となって

平成4年4月、福井県立大学開学と同時に私は図書館員となった。司書資格を取得しているとはいえ、実地の経験のない「ペーパー司書」といったところ。そして我が福井県立大学情報センターも現在は「仮免・練習中」くらいの図書館かもしれない。静かに走り出した感じ。

開学から1年足らず、教員や学生に迷惑をかけた事など数えきれない。何とんでも「蓄積」がない。それは、資料の蓄積と、私自身の知識の蓄積である。資料の発注、整理、またレファレンスに至るまで、この蓄積の無さは影響が非常に大である。

このようなことは、新設の図書館や新米の図書館員には、多かれ少なかれあることだと思う。これは1人前の大学図書館あるいは司書になるまでの「産みの苦しみ」というものかもしれない。そして当然のことながら「産みの苦しみ」は「産む」時にしかないものである。すると私の抱えている2つの「苦しみ」は、大変贅沢なものなのかもしれない。当分の間、他の図書館の方々にも迷惑をかけることと思いますが、よろしく願います。

(福井県立大学情報センター 白崎 智美)

福井地区大学図書館協議会研修会

今年度は敦賀女子短期大学が幹事校となり、6月30日の定例会議において事業計画が決定され、8月26日に実施された。

「大学図書館の機械化について」というテーマで、幹事校を会場として、参加は8校25名であった。

大学図書館に活用できる機器のメーカーの中で、今回は富士通株式会社と日本電気株式会社の協力を得、両社の関係者14名が来場し、資料について、また搬入された一部の機器見本について説明が行われた。

エレクトロニクスや材料技術の発達にともなうコンピュータをはじめとする機器類とそれを活用するソフトウェアの発達は日進月歩である。

富士通からは、富士通図書館情報システム I L I S / X-10と I L I S / X-70及び、富士通光ディスク電子ファイリングシステム E F S 80が紹介され、日本電気からは、大学図書館システム L I C S U - E X が紹介された。発注、受入、予算管理、統計、検索、貸出、返却、予約などの手続業務が簡易、迅速、的確にできる機器システムをまのあたりにして、学ぶことができた。いずれも高価なものであるが、導入できるならば素晴らしいことである。

(敦賀女子短期大学図書館 佐藤 夏生)

福井県学校図書館協議会この1年 (平成4年度)

- 5月13日 第1回県学校図書館協議会役員会。(於武高)
 5月26日 第1回県学校図書館協議会理事会。(於武高)
 〈本年度事業計画、前年度決算・本年度予算の審議決定を行う。〉
 5月～7月 第18回県小中学校読書感想文コンクール。
 7月9日 第2回県学校図書館協議会役員会。(於鯖江市嚮陽会館)〈第8回近畿学校図書館夏季セミナーの運営についての審議〉
 7月～10月 文庫による読書感想文コンクール。
 7月～10月 第38回青少年読書感想文全国コンクール県予選。
 8月26日 第8回近畿学校図書館夏季セミナー開催。〈近畿7府県より、学校図書館担当者約300名の参加を得て、「学校図書館の運営」「読書指導」「利用指導」「資料の整理」等についての研修を行う。〉
 (於鯖江市嚮陽会館)
 11月9日 第3回県学校図書館協議会役員会。(於武高)
 11月 青少年読書感想文全国コンクール県審査。
 11月～1月 第10回読書感想文コンクール。
 2月26日 第2回県学校図書館協議会理事会。(於武高)
 2月下旬 会誌「福井県の学校図書館」第38号発行。
 (福井県学校図書館協議会事務局長 斎藤 星次)

平成4年度 東海北陸地区公共図書館研究集会

10月14・15日の両日、福井県職員会館において「生涯学習と公共図書館の役割について」を研究主題に、平成4年度東海北陸地区公共図書館研究集会を開催した。参加者は118名で、本県からは59名が出席した。

研究内容は、富山県・町立上市図書館の谷川美代氏が「暮らしの中に図書館をめざして」、岐阜県・川島町本の家三輪昭子氏が「図書館を文化・学習の情報発信拠点に」、福井市立図書館の森瀬一氏が「生涯学習時代にむけて一福井市立図書館のあゆみ」というタイトルで事例発表を行った。引き続き大阪教育大学教授の塩見昇先生が「生涯学習と公共図書館」と題した講演を行った。1時間半の講演予定が2時間にもおよぶ熱の入った話の内容であった。このあと同会館で約50名の参加のもと交流会を行い、なごやかな雰囲気でお互いに親交を深めた。

2日目は石川県立図書館の香村幸作氏の司会で、前日の事例発表の質疑応答および討議を行った。最初は静かだった会場も、徐々に質問や意見が出されるようになり、予定時間をオーバーする程活発な討議がなされて、2日間の研究集会の幕をとじた。

(事務局)

■平成5年度研究集会および研修会 (予定)

区 分	開催地	期 日
全 国 大 会	札幌市	平成5年9月29日～ 10月1日
整 理 部 門	新潟市	〃 9月16・17日
奉 仕 部 門	広島市	〃 10月28・29日
移 動 図 書 館 協 力 事 業 分 科 会	明石市	〃 10月21・22日
東 海 北 陸 地 区 公 共 図 書 館 研 究 集 会	津 市	〃 11月11・12日
日 本 図 書 館 協 会 地 方 講 習 会	津 市	同 上 (同上の集会と兼ねて開催)
全 国 視 聴 覚 教 育 研 究 大 会 (全 視 連)	秋 田 市	平成5年11月11・12日
東 海 北 陸 地 区 視 聴 覚 ラ イ ブ ラ リ ー 研 究 協 議 会	岐 阜 市	〃 8月25・26日

事務局通信

今年度も昨年に続き図書館建築が相次ぎました。福井県立大学情報センター・武生市立図書館分館 らいぶはうす 福井市立みどり図書館の3館が新築されました。新年度に入ると、11月には三国町立図書館がゆとり文化情報館(仮称)としてオープンします。

御多忙中にもかかわらず執筆いただきました方々に、厚くお礼申し上げます。